IAEA LEUバンク設立の背景～燃料供給保証の構想～

燃料供給保証とは：

- イランや北朝鮮の核開発、核テロリズムや核の闇市場等の核拡散懸念の増大を背景に、核兵器開発にもつながりかねない、濃縮・再処理能力の開発を抑制することが目的
- 政治的な理由等により、核燃料の供給が途絶した場合に、核燃料の供給を代替的に受けられるシステムを構築し、濃縮能力を持つことの必然性をなくそうとしたもの

IAEA LEUバンク設立のきっかけ

- 2003年に当時のエルバラダイIAEA事務局長が本構想を発表して以来、IAEA加盟国から、以下のような提案が行われ、IAEA等での議論を経て、ほぼNTI提案に近い形で実現したもの
- 主なものは、米国提案（解体核起源のHEU希釈によるLEUバンク）、六か国（仏、独、蘭、露、英、米）提案（市場での供給、IAEAのバックアップ、各国の備蓄の3段階での供給を確保）、NTI提案（NTIの\$50m拠出プラス他からの\$100m拠出により購入するLEUバンク）、日本提案（仮想の核燃料バンク(核燃料を直接は所有せず、燃料供給会社での優先的な権利確保により供給)構想) 等

過去の核燃料供給に関する主な構想

- 国際核燃料サイクル評価（INFCE）
 - 1977年、米国カーター政権時に発足
 - 原子力平和利用の促進と核不拡散の危険の低減を議論
 - 再処理や濃縮については、施設の制限を結論とした
- 供給保証委員会（CAS）
 - 1980年、IAEAクランド事務局長の提唱に基づき発足
 - 不必要な濃縮や再処理施設建設のインセンティブを減少させることを目標に発足
 - 先進国の途上国の活動を制限するような議論と、途上国の主張が相容れず、結論に至らなかった